

元祖 モリモリ書店

令和2年度 愛知教育大学附属岡崎中学校

読書だより しおりも読んでも売れ行き順

第39話 R02.09.11(金)
「大人にはわからない
子どもの世界。」

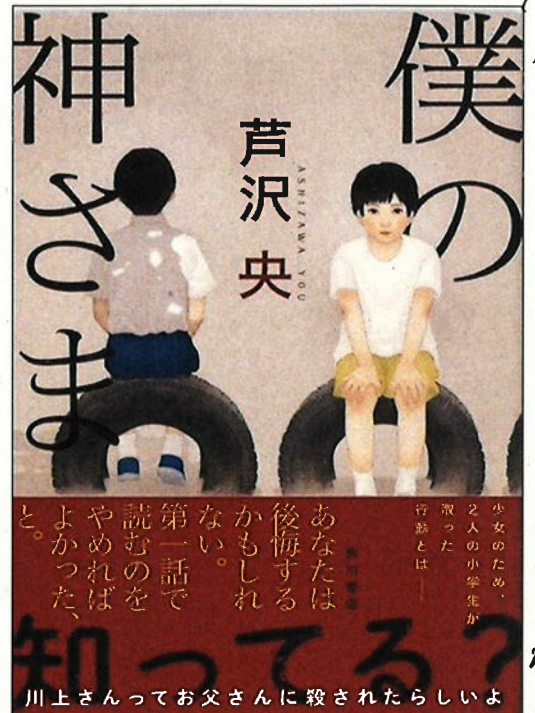
カバリのイラストも、と、？もすてまてすね。

★今回、紹介する本は、『僕の神さま』（著/芦沢央、出版/角川書店）です。

前作『火のないところに煙は』が本屋大賞にもノミネートされ、「イヤミス」系作家として活躍する作者の最新作。今回は、またひと味違います。

どこにでもいそうな小学5年生の「僕」が主人公。何か困ったときにいつも解決してくれるため「神さま」と呼ばれる水谷君。そんな二人が、日常に起こるちょっとした事件を解決していく連作短編集。

最初は、少しほのぼのとした少年ミステリと思わせておいて、途中から、同級生の女の子・川上さんの登場で、物語は一気に苦く切ない展開に一。



カバリのイラストも、と、？もすてまてすね。

少年たちの切なる思いが非常に魅力的に描かれた作品。心に痛みを覚える経験を重ねながら、少しずつ成長していこうとする姿に胸をうたれます。大人も子どももぜひ。

神さま

って、何が？

『ただ、僕にはまだ、
誰かの人生を背負う
ことなんてできない。』
★(p.245)★

『自分はただ』

逃げた
がただ
なのだ。』
★(p.243)★

一人の
女の子
との出会い
が、二人の
少年の人生
を変えていく。